

令和5年度横浜市普通会計決算の概要

※各項目で四捨五入しているため、合計が一致しない場合があります。

1 歳入

1兆9,854億円

(対前年度△1,226億円)

《主な要因》

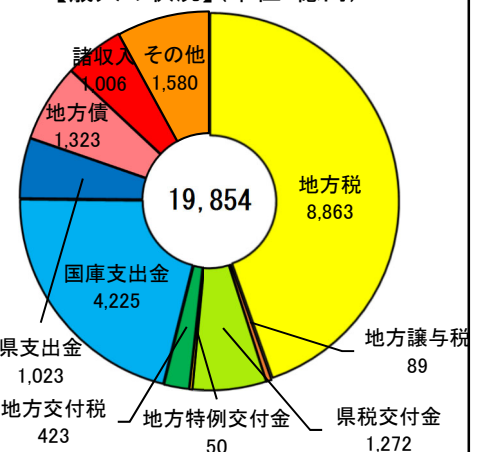
- ・経済局過年度貸付金元利収入の減少等による諸収入の減(△737億円)
- ・住民税非課税世帯に対する給付金の支給終了に伴う住民税非課税世帯臨時特別給付事業費補助金の皆減等による国庫補助金の減(△432億円)

【対前年度比較】(単位:億円)

区分	R5年度	R4年度	増減
歳入総額	19,854	21,080	△1,226
諸収入	1,006	1,742	△737
国庫支出金	4,225	4,657	△432
財産収入	133	433	△300
地方債	1,323	1,421	△98
地方税	8,863	8,673	190

※上記は対前年度増減額上位5項目を表示

【歳入の状況】(単位:億円)



2 歳出

1兆9,579億円

(対前年度△1,150億円)

《主な要因》

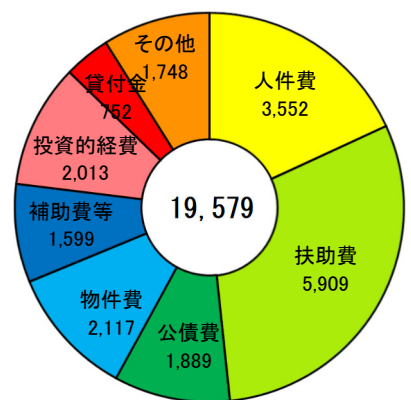
- ・新型コロナ対策で増大していた中小企業向け制度融資の預託金の減等に伴う貸付金の減(△723億円)
- ・新型コロナウイルスワクチンの接種件数が減少したこと等に伴う物件費の減(△285億円)

【対前年度比較】(単位:億円)

区分	R5年度	R4年度	増減
歳出総額	19,579	20,729	△1,150
貸付金	752	1,475	△723
公債費	1,889	2,189	△300
物件費	2,117	2,403	△285
人件費	3,552	3,644	△93
扶助費	5,909	5,685	224

※上記は対前年度増減額上位5項目を表示

【歳出の状況】(単位:億円)



3 その他 (経常収支比率、地方債現在高、基金積立金現在高)

(1) 経常収支比率

98.1% (+0.2ポイント)

【前年度比較】(単位:%)

区分	R5年度	R4年度	増減
経常収支比率	98.1	97.9	0.2

(過年度(参考) R3: 95.1 R2: 100.5)

(2) 地方債現在高

2兆2,995億円(△311億円)

【前年度比較】(単位:億円)

区分	R5年度	R4年度	増減
地方債現在高(臨財債含む)	22,995	23,306	△311

(3) 基金積立金現在高

714億円(+216億円)

うち財政調整基金516億円※(+202億円)
※年度間調整分(170億円)や翌年度以降の活用のために、一時的に積み立てている金額(道路局財産収入:23億円)を含んだ残高。

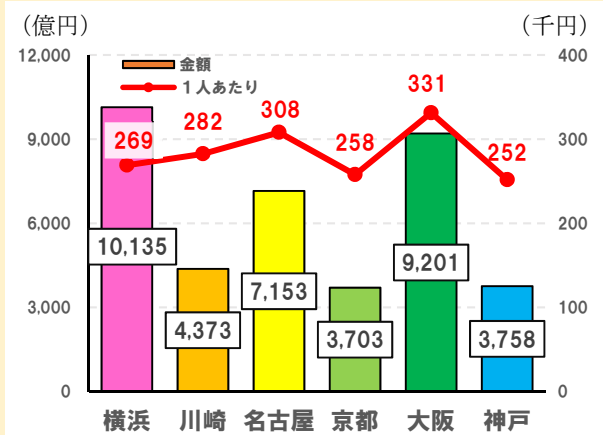
【前年度比較】(単位:億円)

区分	R5年度	R4年度	増減
基金積立金現在高	714	498	216
うち財政調整基金現在高	516	314	202

令和5年度横浜市普通会計決算の概要（他都市比較）

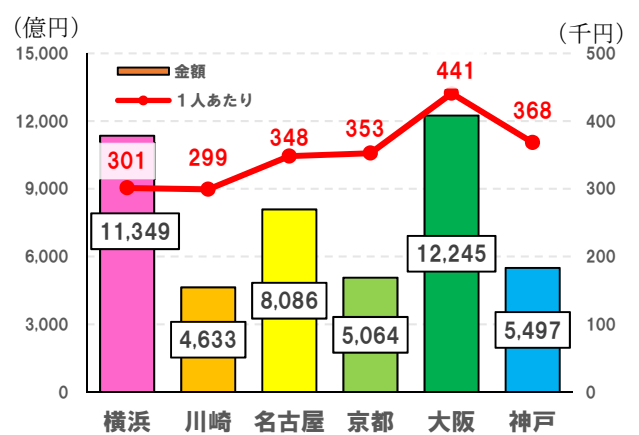
ー人口規模等が似ている他都市と比較した場合の本市の主な特徴ー

歳入（うち地方税及び県税交付金）



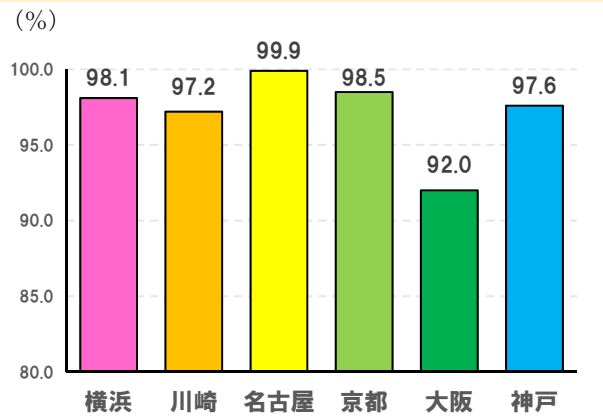
総額は最も大きいですが、1人あたり金額は、神戸市、京都市について小さい。

歳出（うち義務的経費（人件費、扶助費、公債費））



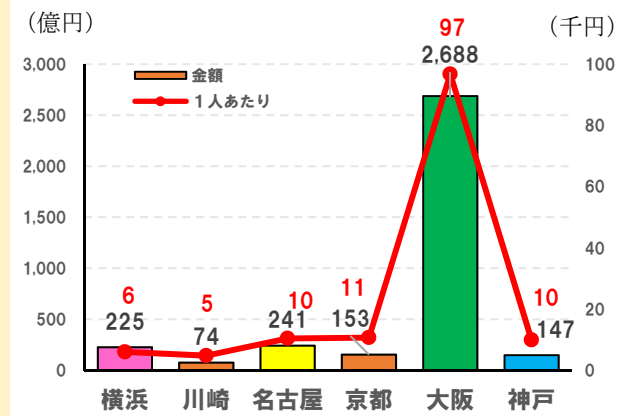
総額は大阪市について2番目の大きさであるが、1人あたり金額は、川崎市について小さい。

経常収支比率



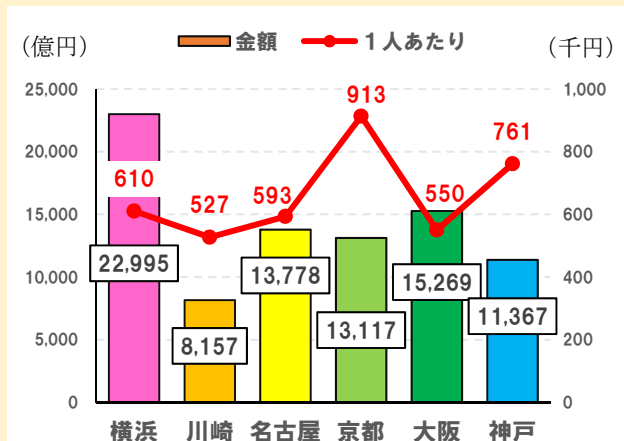
令和5年度は、扶助費の増等により上昇し、名古屋市、京都市について高くなっている。
（4年度は97.9%で、京都市に次ぐ比率。）

財政調整基金現在高



1人あたりの残高は、川崎市について小さい6千円となっている。

地方債現在高



総額は最も大きいですが、1人あたり金額は、中位程度となっている。

主なポイント

令和5年度普通会計決算等から見た本市の特徴は、

○地方税及び県税交付金や義務的経費の1人あたり金額は他都市と比較して小さい。財政の弾力性を示す経常収支比率は依然として高く（高い＝財政が硬直している）、予算編成や執行において、非常に厳しい状況となっている。

○災害時等の急な財政出動等に対応するための財政調整基金は残高については、現下の社会情勢を見極めた適切な管理が必要となっている。

○地方債現在高の1人あたり金額は、他都市と比較して中位程度となっているが、引き続き、投資管理を適切に進めていく必要がある。

⇒中長期の財政方針として策定した「横浜市の持続的な発展に向けた財政ビジョン」（令和4年6月策定）に基づき、持続可能な市政運営に向けて、事業の新陳代謝や、歳出改革による財源創出、財源確保の取組等を進めている。

（注1）各都市人口は令和6年4月1日現在を使用して算出。

（注2）本市財政調整基金現在高は、年度間調整分（170億円）や翌年度以降の活用のために、一時的に積み立てている金額（道路局財産収入：23億円）を控除した実質的な基金残高。